

2020年9月26日

外国語学部英米学科の学生の皆様
保護者の皆様

副学長（学務担当） 鈴木 達也
外国語学部長 牛田 千鶴

英米学科の LL 実習費について

南山大学の LL 教室は、1949 年に当時の最新の技術を取り入れて日本で初めて導入されました。当時は、LL 機器が備わった教室としての使用に限定されていましたが、2009 年には、CALL（コンピュータを活用した外国語教育）システムで LL の機能を実現する一方、英米学科のみが利用できる PC および視聴覚設備を備えた教室として生まれ変わりました。

現在、LL 教室は、学科の英語科目だけでなく、2 年次から履修可能な英語音声学や英語翻訳法、Special Topics in English といった英米学科の専門科目、さらには一部のゼミでは卒論指導にも使用しています。9 時～19 時の間で授業に使用していない時間帯は、英米学科生のみが利用できる PC 教室として、個人の自習やグループ活動に利用できるようになっています。2020 年度には、LL 教室の CALL システムを活用して、近年低下が懸念されている英作文能力の向上のための支援を行おうと準備していました。CALL システムを用いれば、教員は学生が英作文をしているその瞬間をモニターすることができ、リアルタイムで助言することが可能となり、大変効果的です。

こうした LL 教室の整備、運営は、2009 年度から「LL 実習費」という名で英米学科の皆さんにご負担いただいています。1・2 年次は年間 18,000 円、3・4 年次は年間 9,000 円、合計 4 年間で 54,000 円を負担してもらっています。実習費という名前になっていますが、その実質は、この LL 教室の整備、運営のための費用です。それを英米学科の学生のみが負担することから、その設備の利用も、英米学科の学生に限定されるわけです。施設そのものは定期的な設備更新も含めた事業計画に基づいて運営されており、2020 年度には、この計画に基づき、約 3,200 万円を投じて、最新の設備を備えた LL 教室にリニューアルしています。このような運営からもご理解いただけるかと存じますが、LL 実習費は、授業等での利用回数に基づいて計算される性質の費用ではなく、長期的視野に立った施設の整備、運営のための費用です。1・2 年次生と 3・4 年次生で金額が異なるのは、後半を軽くすることによ

り負担感を和らげたいと考えたからです。このような、本学英米学科の教育に不可欠な LL 教室の整備、運営に何とぞご協力下さいますよう、あらためてお願い申し上げます。

2020 年度は、確かに LL 教室を有効に活用できておりません。その分、教員は、より多くの時間をかけて指導、助言を行い、教育の質の維持に努めています。英米学科としましては、今年度実現できなかった部分については、来年度以降に CALL システムを活用することによって補うことにしております。来年度は、例年よりも LL 教室を利用する授業を増やすとともに、授業時間外の支援についても充実させて、皆様のご期待に応える所存です。

今年度につきましても、まだ CALL システムに触れる機会のない 1 年生のみなさんにキャンパスに来てもらい、LL 教室で行われる英米学科の授業の体験をしてもらうイベントを企画しています。

どうか、皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。